

2nd International Symposium on Ozone Applications

Havana, Cuba, March 24-26, 1997

ABSTRACTS OF PAPERS -Ozone in Medicine-Part 2

日本語抄訳 (医療法人) 大谷内科胃腸科 大谷雅彦

27. Total Ozone Therapy of Trophic Ulcer of Lower Extremities in Elderly Patients (老人性下肢の局所性潰瘍の総合的オゾン治療)

S. Gorbunov, L. Gorbunova, Ph. Romashov, V. Dmitriev, and V. Isaev (Medical Institute Of Frontier-Guard Service, The Medical Academy, Nizhni Novgorod, Russia).

長期間にわたる足や下腿の局所潰瘍、42例症例についてオゾンを使用した(年齢は61-84歳)。プラスチックバッグ中オゾンガスの局所治療を行った。さらに最初の8~10日間は潰瘍をオゾン飽和の消毒薬塗布ガーゼで被覆した。著明な上皮形成後は、消毒処置はオゾン化オリーブオイルで行った。潰瘍は最初の2,3日で化膿性沈着で覆われた。プラスチックバッグによる外用治療と一緒に潰瘍周囲の皮下にオゾン/酸素混合ガスを皮下注射した。また、酸素依存過程の正常化や末梢循環の改善、解毒の目的で、オゾン化した rheopolyglukine 250ml を毎日、静注した。最も効果が見られたのは減圧用チャンパー中での陰圧オゾン治療であった。皮膚表面潰瘍の完全な修復が得られなかったのは42例中1例のみであった。

28. Ozone plus Cobalt Therapy in Patients Suffering from Prostatic Cancer (前立腺癌患者におけるオゾンとコバルトの併用療法)

L. Borrego, L.L. Borrero, E.C. Diaz*, S. Menendez**, L.R. Borrego***, and R.A. Borrego*** (Provincial Center of Retinitis Pigmentosa, Holguin, Cuba, *V.I. Provincial Center of Retinitis Pigmentosa, Holguin, Cuba, **Ozone Research Center, Cuba, ***Faculty of Medicine, Holguin, Cuba).

オゾンが組織の酸素化を起すことを考慮して、前立腺癌患者のコバルト60照射治療に併用したオゾン療法の有効性を評価した。70症例の中、35例はオゾン注腸法とコバルト治療を行い(オゾン群)、35例はコバルト治療のみを行った(コントロール群)。副作用(放射性皮膚炎、膀胱炎、直腸炎)は、コントロール群の84%、オゾン群の52%に見られた。10ng/ml以上の前立腺特異抗原(PSA)の減少が、オゾン群の92%に、コントロール群の52%に認められた。6ヶ月後には、オゾン群では88%、コントロール群では80%に臨床的およびホルモンの学的に緩解が得られた。オゾンとコバルト療法の併用は、副作用を軽減し、放射線感受性の増加をもたらすといえる。

29. Ozone Therapy in the Treatment of Patients with Secondary Immunodeficiencies (後天性免疫不全症の治療におけるオゾン療法)

R. Puga, R. Roderiguez, C. Gonzalez, and J. Munoz (Central Havana Pediatric Hospital, Cuba).

上気道および下気道の感染を繰り返す小児後天性免疫不全症22例で、オゾン療法の治療効果を臨床的および免疫学的に検討した。年齢に応じた量のオゾン注腸法をすべての患者に適用した。治療後には臨床的にも、免疫学的にも改善が見られ副作用は見られなかった。後天性免疫不全症に新しい治療の可能性が開かれた。

30. Ozone Therapy in Patients with Chronic Gastritis (慢性胃炎患者におけるオゾン療法)

S. Androsov, L. Eremina, N. Nikolaev, B. Sarantzev, and O. Maslennikov (Nizhni Novgorod, Russia).

Helicobacter pylori (HP)に関連する68例の慢性胃炎患者に対するオゾン治療の効果を評価した。89%の患者に臨床的効果が見られた。内視鏡像の改善が43%、出血、炎症の組織学的な減少や胃粘膜の微少血液循環の改善が71%であった。29%でHPがコントロールされ、23%でHPの分布が減少した。オゾン水やオゾン化油の経口投与、オゾン/酸素混合ガスの注腸、オゾン化血液や液体の静注、さらに鍼つばへのオゾン/酸素混合ガスの局注法などが、新しい治療法として考えられる。

31. Dynamics of Histaminopenia and Serotoninopenia Neurodermatitis Patients During Ozone Therapy (ヒスタミンおよびセロトニン固定性神経皮膚炎患者のオゾン治療における動態)

O. Bitkina (Nizhni Novgorod State Medical Academy, Russia).

神経皮膚炎60症例で、少量自家血液療法とオゾンの注腸療法が行われた。患者の年齢は9~35才、平均21.8才。罹患期間は1~35年、平均18.7年である。53%で臨床的緩解が得られ、45%が有意で改善が得られ、2%(1症例)でわずかに改善した。

3 2. *Ozone Therapy in Ischemic Heart Disease (IHD)* (虚血性心疾患におけるオゾン療法)

Y. Shaarov, N. Maslenikova, N. Dushkina, and O. Maslennikov (Regional Diagnostic Center, Nizhni Novgorod, Russia).

85症例を治療した。80例は安定狭心症であり、5例が進行性狭心症であった。治療は3~4週間、オゾンと酸素/混合ガスの静注*および注腸法が行われた。80例の安定狭心症のうち76例(95%)に良好な結果が認められた。同症例の46例(58%)で胸痛が完全に抑制できた。30例(37.5%)では胸痛の程度が低下した。4例では全く改善が見られなかった。進行性狭心症には高い効果があることが判明した。オゾン療法は、IHDの治療において非常に有用であると考えられる。オゾンのプラス効果は抗酸化物質、血液凝集や酸素輸送系への影響による。*訳者註：中止の傾向にある。

3 3. *Ozone Therapy in Supra-segmental Vegetative Disorders* (上分節の不随意性障害*におけるオゾン療法)

*訳者註：起立性調節障害や、筋緊張性頭痛、自律神経失調症をさしているようだ。

S. Kotov, A. Gustov, and C. Kontorschikova (The Medical Academy of Nizhni Novgorod, Russia).

106例の自律神経失調症患者(平均年齢26.5才、平均罹患期間3.6年)にオゾン化生理食塩水*(OS)の点滴を治療法の一つとして行った。オゾン療法は、一日おきに5回行った。結果はOSの点滴が自律神経失調症の患者におけるオゾン療法の有効性を増すことを示した。

*訳者註：OSの調製法の記述は不十分で、参考は慎重に。

3 4. *Ozone Influence on Pro-inflammatory Process in Maxillo-facial Part of Head and Neck* (頭頸部の上顎顔面附近の前炎症過程におけるオゾンの影響)

E. Dumovo, I. Kinyapina, and C. Kontor-schikova (The Medical Academy of Nizhni Novgorod, Russia).

歯科疾患に起因する上顎顔面蜂窩織炎の患者50例における従来の治療法とオゾン療法の併用の結果を報告する。オゾン濃度1300 μ g/Lのオゾン化生理食塩水の静注、および4500 μ g/Lと2000 μ g/Lのオゾン化蒸留水による創部局所と口腔内の洗浄にオゾンを使用した。患者の中には、頸部や縦廓臓器が侵され外科的処置が必要な重症の腐敗性壊死性蜂窩織炎の患者も含まれている。オゾン治療の結果、3~4日で化膿性滲出物や壊死がなくなり、創部の除去に至った。創部では、単核貪食細胞の活性化、創表面を被う上皮の強固な形成と共に間充組織の著明な増殖がみられた。最初のオゾン化生理食塩水の静注とともに、全身状態の改善、体温や臨床検査値の正常化、全身抗酸化系の活性化、口腔内の局所免疫抵抗の活性化が認められた。7~8日目には二次的縫合が可能となり、瘢痕形成を防ぐことができた。

3 5. *The Use of Ozone in Medicine. Casuistical Analysis I.* (医学におけるオゾンの使用。解析1)

I. Jimenez, G. Aguilera, R. Moro, E.L. Torrez, and P. Dominguez (Clinical Surgical Provincial Hospital, Villa Clara, Cuba).

我々の施設でオゾン治療を受けた6年間、45,000例の解析の結果を報告する。オゾンを単独あるいは他の療法と併用して用いた時の異なる医学的特性と病態を指摘し、その有用性を報告する。

3 6. *Therapeutic Approach with Allotropic Oxygen Insufflation and Acupuncture in Infertility and in F.I.V.E.T. An Hypothesis* (不妊と体外受精胚移植におけるオゾン注入と鍼治療の試み、一つの仮説)

G. Menaldo, M. Sodano, and A. Meluzzi (Institute of Psychosomatic Obstetric and Gynecology of Turin, Italy).

我々は適切な排卵を得るために鍼治療のツボを用いる治療法を計画した。F.I.V.E.T.手技におけるオゾンの使用は投与するFSHの用量を減少させようという利点をもたらした。また子宮内膜の状態の改善でそれによってF.I.V.E.T.における失敗の真の問題である着床率の改善という利点をもたらした。受精卵を戻す前にオゾンを直腸内に注入すると、さらに興味あることが起こった。

3 7. *Ozone Therapy on Celulitis Disease* (蜂窩織疾患におけるオゾン療法)

J.L. Cidon (Madrid, Spain).

オゾンを蜂窩織炎の部位に投与すると末梢血管の循環を著しく改善した。さらにオゾンは変性した脂肪組織を破壊することもできる。

3 8. *Use of Ozone Therapy in Reiter's Syndrome* (Reiter症候群におけるオゾン療法)

J.M. Toledo, Y. Betancourt, J.C. Pina, Y. Mapolon, E. Recio del Pino**, and M. Rodriguez del Rio** (Dr. Octavio de la Concepcion Pedraja Hospital, Camaguey, Cuba, *Dr. Eduardo Agramonte Pina, Pediatric Hospital, Camaguey, Cuba, **Retinitis Pigmentosa Center Camaguey, Cuba).

1995年から1996年までの一年間、Dr. Octavio de la Concepcion Pedraja Hospitalでこの疾患10例の外来患者にオゾン療法を行った。これらの患者は20-25歳の男性である。直腸内注入によるオゾン療法3回目から結膜炎の改善が、関節炎では90%の症例が5回目以降に改善された。さらに他の症状においても従来の治療に比べて改善が得られ、再発は認めなかった。

3 9. *Clinic Comparative Study of Ozone Therapy and Metronidazol in Intestinal Amebiasis* (腸アメーバ症におけるオゾン療法とメトロニダゾールの臨床比較試験)

J. Bustelo and G. Vega (Dr. Antonio Luaces Iraola Hospital, Ciego de Avila, Cuba).

小児の腸アメーバ症に対し、オゾンの直腸内投与とメトロニダゾールの比較試験を行った。オゾン療法では、83.8%で有効であり、わずか0.55%に副作用が認められたのみであった。一方、メトロニダゾールでは71.7%で有効で、17.7%に副作用が認められた。

4 0. *Ozone Therapy : A Useful Alternative on Virulent Hepatitis Treatment* (オゾン療法：伝染性肝炎における有用な代替療法)

Y. Betacourt, J.M. Toledo, E. Recio*, A. Gomez, M. Rodriguez*, C. Harrys*, and J.P. Pina** (Octavio de la Concepcion y de la Pedraja Hospital, Camaguey, Cuba, *Retinitis Pigmentosa Center, Camaguey, Cuba, **Dr. Eduaro Agramonte Pina Children Hospital Camaguey, Cuba).

17~45歳までの80例のA, B, C型肝炎の症例を対象とした。従来法(安静と治療食)とオゾン療法の併用を40例に、残りの40例では従来法のみで治療した。オゾン療法は毎日10mgの直腸投与とし、15回行った。オゾン療法併用群では治療開始の第一週には全身状態や食欲の改善などを含め、肝腫大などすべての症状の緩解が得られた。すべての患者が治療終了時には完全に治癒した。従来法の群では、10日以上も症状が持続し、完全な治癒はおよそ6ヶ月後に得られた。オゾン療法は患者の健康と治療期間を改善する適切な治療である。

4 1. *Subcutaneous Ozone Therapy in the Treatment of Simplex Herpes* (単純疱疹における皮下オゾン療法)

J. Delgado, R. Wong, C.p. Regalado*, and A. Noriega (Medical and Surgical Resarch Center, Cuba, *Carlos J. Finlay Hospital, Cuba).

陰部、口唇および臀部に局在する単純疱疹84例について検討した。オゾン皮下注射法によるこの疾患へのオゾンの抗ウイルス作用は今まで報告されていない。これは新しく安全な治療法である。

4 2. *Ozone Therapy in Dermatoses : Pyoderma* (皮膚疾患におけるオゾン療法：膿皮症)

S.L. Krivatkin and E.V. Krivatkina (Sormovo Interdistic Dermatovenereological Dispensary, Nizhni Novgorod, Russia).

64例(男性41例、女性23例、年齢15~64歳)の膿皮症患者にオゾン療法を行った。オゾン投与は、少量自家血液療法(5mlの自家血に10ml*のオゾンを混合し筋肉注射)と、プラスチックバッグを用いる方法を使用した。オゾン濃度は、7~20 μ g/mlである。ほとんどの症例でオゾン療法にあわせて従来の軟膏治療も併用した。51例で完全治癒が、10例で著明な改善が、1例で改善が得られ、2例では効果がみられなかった。オゾンは真菌症や抗生物質不耐症にも使用可能であり、細菌の耐性獲得の問題もなく、比較的安価であることや、副作用がない事が、従来の抗生物質の全身投与等に比しオゾン療法の有利な点である。しかしながら重症例では、抗生物質の全身投与より治癒期間が遅い事がある。オゾン療法は有効、安全、安価な膿皮症の治療方法である。

*訳者註：オゾンの絶対量は70~200 μ g

4 3. *Saturated Hb and pO₂ in vivo and ex vivo in Patients Treated with Ozone Therapy* (オゾン療法を受けた患者の生体内および生体外の飽和ヘモグロビンと血中酸素分圧)

R. Wong and A. Noriega (Medical and Surgical Resarch Center, Cuba).

大量自家血液療法を受けた100例の症例で、Hb飽和度と血中酸素分圧を治療前とオゾン投与1時間後で比較検討した。体外のオゾン化血液も測定した。オゾン療法を受けた症例では顕著な組織酸素化が得られた。体外オゾン化血液の結果とともにその結果を報告する。

4 4. *Correlation of Plasma Interleukin 1 Levels with Disease Activity in Rheumatoid Arthritis with and without Ozone* (オゾン療法の有無による慢性関節リウマチ患者の血漿中インターロイキン1濃度と疾患活性の関連)

Z. Fahmy (Augusta-Klinik, 55543 Bad Kreuznach, Germany).

51例の慢性関節リウマチ患者の血漿中インターロイキン1 β 濃度はオゾン療法を受けた21例のそれより有意に高値であった。インターロイキン1 β は慢性関節リウマチの病因として中心的な役割を持ち、オゾンが血漿中インターロイキン1 β 濃度に影響を与えると考えられる。

4 5. *Immunological Findings in the Peripheral Blood and in the Synovial Fluid after Intraarticular Ozone Injections in Rheumatoid Arthritis* (慢性関節リウマチにおけるオゾン関節内注射後の末梢血と滑液内の免疫学的所見)

Z. Fahmy (Augusta-Klinik, 55543 Bad Kreuznach, Germany).

末梢血と滑液内のサイトカインへのオゾンの影響を調べた。大量自家血液療法とオゾンの関節内注射を受けた群と、オゾンを投与しない群で比較した。オゾン投与群で骨髄内の顆粒球(好中球、好酸球、好塩基球)とその他の細胞の分布について有意の変化が見られた。

4 6. *Clinical Aspect of O₂/O₃ in Rheumatic Diseases* (リウマチ性疾患におけるオゾンの臨床的評価)

Z. Fahmy (Augusta-Klinik, 55543 Bad Kreuznach, Germany).

最近の医療オゾンの研究で我々は、オゾン治療手段として用いることが臨床学的にも生物化学的にも必要であるとの結論に達した。

4 7. *Our Experiences in the Use of Ozone Therapy in the Elderly* (老年者におけるオゾン療法の我々の経験)

M. Casas, B. Conde, and F. Ramos (Camilo Cienfuegos Provincial Hospital, Sancti Spiritus, Cuba).

1991年から1995年までの5年間に種々の疾患の老年者にオゾン療法を行った。統計学的解析では、80%以上に改善がみられた。副作用も不耐性もみられなかった。オゾン療法は、老年者に対する重要な治療手段と考えられる。

4 8. *Ozone Therapy in the Treatment of Osteoarthritis* (骨関節炎におけるオゾン療法)

B. Conde, M. Casas, M. Delgado, and F. Ramos (Camilo Cienfuegos Provincial Hospital, Sancti Spiritus, Cuba).

5年間に種々の関節炎患者200例にオゾン療法を行った。男性が60%、女性が40%、その中、80%が40才以上であった。三つの群に分類した。一群はオゾン療法のみ、二群はオゾン療法と薬物療法、三群は二群に理学療法を加えた群である。概して85%で改善が得られた。

4 9. *Ozone Therapy in Reactive Arthritis* (反応性関節炎におけるオゾン療法)

B. Conde, M. Casas, C. Matinez, and F. Ramos (Camilo Cienfuegos Provincial Hospital, Sancti Spiritus, Cuba).

過去3年間に30例の反応性関節炎の患者にオゾン治療を行った。患者の55%について反応性関節炎は上気道感染の帰結であった。臨床的評価は早い改善と副作用がなく満足すべきものであった。

5 0. *Ozone Therapy in the Treatment of Bone Infections* (骨感染症におけるオゾン療法)

J.C. Escarpanter ("Comandante Pinares" General Hospital, San Cristobal, Cuba).

治療にはオゾンの直腸内注入、オゾンの局所投与およびオゾン化油 (OLEOZON) を用いた。敗血症性の骨へのオゾンの直接投与はユニークな治療法であり、抗生物質や外科的処置法等との併用も行った。大部分の患者で良好な結果が得られたが、顕著な改善はオゾンのみを使用した患者で得られた。オゾン療法は、骨関節系の慢性感染症において推奨される治療法である。

5 1. *A Solution for Post-traumatic Osteal Expositions : Association of Greater Omentum Graft with Ozone Therapy* (外傷後の骨露出への解決法 ; オゾン療法を併用した大網移植)

J.C. Escarpanter ("Comandante Pinares" General Hospital, San Cristobal, Cuba).

感染の有無をとわず骨折部の露出 (開放性骨折) に対する実際的な治療としてオゾン療法と関連した大網の使用法を報告する。これらの治療法はコストも安く患者の満足度も高かった。

5 2. *Oxygen-Ozone Therapy and Omotoxicology Drug in Gonarthrosis* (膝関節症におけるオゾン療法と生薬*)

* 訳者註 : 厳密な訳ではない。本文内容から判断した。

L. Cursio and G. Menaldo (Unite Reseach of Global Medicine, I.P.O.G, Turin, Italy).

鍼治療のツボへのオゾン投与と、シミシフガ、コロシトウリ、アルニカやベラドンナなどの生薬との併用療法を研究している。30 μ g/ml濃度のオゾン15mlを関節間腔と関節周囲に注射した。生薬は関節周囲に皮下注射した。43~62才までの48例について治療を行った。3~4回の治療後には症状は速やかに改善し、夜間痛や腫脹も減少し、関節機能の回復もみられた。治療回数は最初は週2回、その後週1回で8~15回であった。5例でのみ患者の協力がなく、満足する結果が得られなかった。

5 3. *Oxygen Ozone and Colocynthis-Cimifuga Treatment in Slipped Disc* (椎間板ヘルニアにおけるオゾンとColocynthis-Cimifuga治療)

L. Cursio and G. Menaldo (Unite Research of Global Medicine, I.P.O.G., Turin, Italy).

73例で治療した。オゾンとColocynthis-Cimifugaを椎体の周囲の筋肉内に注射した。両側、4箇所20mlのオゾンと4mlのColocynthis-Cimifugaを注射した。注射後数分間痛みが残るが、副作用も合併症もみられなかった。57例については痛みやすべての症状が消失し、筋肉の緊張も正常に回復した。16例で痛みは改善し、症状は減少したが完全には消失しなかった。

5 4. *The Use of Ozone for the Intensification and Optimization of Oral Hygiene* (口腔内衛生の強化と最適化の為のオゾンの使用)

L.M. Lukimikh and S.Y. Kosjuga (Russia).

口腔内衛生用にオゾン水 (2000 μ g/Lのオゾン蒸留水を10分間溶解させたもの) が現在、広く使用されている。1回20~30mlで3~5回、全量100mlのオゾン水を歯科口腔洗浄に使用した。この方法は堅い歯組織や歯周囲組織に何ら影響することもなく、有用な方法である。

5 5. *Experiences with Ozone Therapy in the Sutton Disease (Periapical Mucous Necrotic Recurrens) A Case Report* (Sutton 病におけるオゾン療法の経験)

G. Legra, J. Turrent*, S. Menendez*, and M. del C. Luis** (Playa Dental Clinic, Cuba, *Ozone Research Center, Cuba, **William Soler Pediatric Hospital, Cuba).

Sutton 病は、再発しやすく、治療抵抗性で、激しい痛みを伴う口腔内の数個の潰瘍を特徴とする珍しい疾患である。この病気には種々の因子がある。種々の治療が試みられてきた5年経過の12歳の患者について20回の直腸内オゾン注入と2年間にわたってオゾン化ヒマワリ油 (OLEOZON) の局所投与を行った。治療期間中の再発は減少し、潰瘍の治癒も早く癒痕形成もみられなかった。

5 6. *A Comparative Study of a Bactericidal Activity of Ozonized Solutions During Treatment of Inflammatory Diseases of Parodontium* (歯周組織の炎症性疾患の治療期間におけるオゾン化溶液の殺菌効果の比較試験)

S. Sorokina and M. Zaslavskaja (The Medical Academy of Nizhni Novgorod, Russia).

微生物学的実験として歯周組織のくぼみ(pocket)をオゾン化溶液 (オゾン水、オゾン化オリーブ油) で、一回洗浄した。pocket内内容物を洗浄の前後に採取し、血液寒天培地で培養した。18~20時間後に発育したコロニー数を数えた。コロニー数は洗浄前で 48.6 ± 5.1 で、洗浄後 6.2 ± 0.3 であった。

5 7. *Ozone Therapy as a Part of a Complex Treatment of a Parodontium Disease* (歯周組織疾患の併用療法の一つとしてのオゾン療法)

S. Sorokina and L. Lukinych (The Medical Academy of Nizhni Novgorod, Russia).

歯周組織疾患のオゾン療法は病原性に適切な治療法である。オゾン化溶液による口腔内の洗浄でGreen-Vermillion 指数やPMA指数の改善が得られた。pocketの洗浄によりこれら指数は2倍以上に改善した。この治療法は副作用もなく、どこの施設でも使用可能である。

オゾン化油

日本語抄訳 筑波物質情報研究所 神力就子

58. *Application of Ozonized Oil in the Treatment of Alveolitis* (歯槽炎治療へのオゾン化油の適用)

O. Cruz, S. Menende*, M.E. Martinez**, and T. Clavera** ("Elpidio Berovides" Educational Polyclinic Center, Cuba, * Ozone Research Center, Cuba, ** Sibony Stomatological Clinic, Cuba).

抜歯後の抜歯腔のドライソケットはもっとも高頻度の抜歯後合併症である。これは外科手術日から3日目~4日目で発症し、深刻な痛みと壊疽性の臭いが特徴的である。OLEOZONには組織再生を助ける酸素供給力とあいまって殺菌作用があるため、このオゾン化油がドライソケットの治療に適用された。成人100人の患者を無作為に50人の2つのグループに分けた。治療前にすべての患者の壊疽性の血糊などを取り除くため生食水で洗浄し、滅菌綿棒で注意深く水分を除去した。実験グループでは毎日、OLEOZON (オゾン化ひまわり油) を塗布した。コントロールグループは口内用抗生物質に加えて、毎日、Alvogil で局所的に治療した。治癒状況を72時間ごとに検査した。治癒判断基準は癒痕組織の形成や苦痛軽減を考慮して作られた。糖尿病や外傷性歯牙脱臼はドライソケットにより罹患しやすい因子であった。2~3回の来院で、統計的有意差をもってOLEOZON治療で92%、Alvogil治療で58%の治癒であった。4~6回の来院で完治に至ったものはOLEOZON治療で8%、Alvogil治療では42%であった。OLEOZONで治療された患者は統計的有意差をもってAlvogilで治療された患者より早く治癒した。OLEOZONは患者に受け入れやすく何の副作用もなかった。OLEOZONは歯槽炎治療に効果的な薬物治療である。

59. *Application of Oleozon in the Treatment of Subprosthesis Stomatitis* (義歯性口内炎治療へのOLEOZONの適用)

L. Lemus, E. Ordaz, and E. Rodriguez (Briones Montoto Dental Clinic, Pinar del Rio, Cuba).

義歯性口内炎治療におけるOLEOZON (オゾン化ひまわり油) の効果を評価した。122人の患者について、1996年1月から4月の間に治療を行った。患者を口内炎の障害程度とは無関係に3グループに分けた。グループ1は50人、補綴装置なしでOLEOZONで治療。グループ2は45人、補綴装置なし、OLEOZONの使用なし。グループ3は27人、補綴装置を装着し、OLEOZONを使用した。第1グループでは治癒は100%で、治療期間は8.4日に短縮され (第2グループは43.1日) 副作用はなかった。グループ2とグループ3では治癒はそれぞれ89%と4%であった。

60. *Dyschromia Treated with Oleozon* (OLEOZONによる変色歯治療)

E.T. Castaneira, O. Cruz, and S. Menendez* (Elpidio Berovides Educational Polyclinic Center, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba)

なんらかの理由によって歯が変色してしまった時、この歯の白色化に対するOLEOZONの作用の評価を試みた。30人の患者について15人はOLEOZONで治療し、15人は通常の方法(過ホウ酸ナトリウム/アセトン)で治療した。OLEOZONを使用始めてから第5回目で歯は脱色した。コントロールグループも同様だったので、変色歯の治療に過ホウ酸ナトリウム/アセトン法の代わりにOLEOZONを使用することが可能である。

61. *Oleozon in Gynecology* (婦人科治療におけるOLEOZON)

G.Morris and S.Menendez* (Cira Garcia Central Clinic, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba).

現在、OLEOZONは微生物原因の婦人科疾患の処置に広く使用されている。真菌性または細菌性の膣外陰炎の患者320人に7日間、毎日、OLEOZONを適用した。最初に膣洗浄を行い、その後、OLEOZON治療を行った。通常の薬剤(Trivagin, Nistatine, Canesten, Chloranphenicol 膣錠)と比較したところOLEOZON治療の患者群で良い結果を得た。副作用は報告されなかった。

62. *Application of Oleozon in the Hemorrhoids* (痔核へのOLEOZONの適用)

G.Morris and S.Menendez* (Cira Garcia Central Clinic, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba).

肛門疾患にOLEOZONを適用した文献がなかったので、婦人科、産科受診で来院した痔核の前兆を有する200人の患者にOLEOZONを適用した。病変の緩解はもちろん徴候の早い消失があり、OLEOZONは我が国では発症率の高いこの疾患の効果的な治療法になる。

63. *Therapy Effects of Ozonized Oil (Oleozon) in the Treatment of Giardiasis* (ジアルディア(鞭毛虫)感染症の治療におけるオゾン化油の治療効果)

M.E. Gonzalez, S. Menendez*, A. Escobedo, J. Hernandez, F. Pifiol, N. Cedefio, and W. Diaz* (Gastroenterology Institute, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba).

ジアルディアランブリアは汎存する原生動物であり、今日、その感染に伴う多くの症状のため、深刻な健康問題を作り出している。ジアルディア症の17才~55才の50人の患者について検討した。診断は十二指腸ゾンデ法または便によった。患者は10日間、OLEOZON 1mlの入ったカプセル1個を毎日、朝、夕に摂取した。その後、1週間、治療を中止し、そのあと、最初と同じサイクルを繰り返した。治療判断基準は内視鏡下、十二指腸表面組織サンプル中のジアルディアランブリアの嚢胞体または栄養体の無存在とした。結果は寄生虫学的にみた回復が67%、この病気に伴う炎症性(胃炎、十二指腸炎)の進行の改善が85%であった。

64. *Ozonized Oil (Oleozon) in the Treatment of Children Suffering Giardiasis* (オゾン化油(OLEOZON)によるジアルディア感染症(子供)の治療)

M.E. Gonzalez, S. Menendez*, N. Cedefio, G. Orvera, and W. Diaz* (Gastroenterology Institute, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba).

世界保健機構の種々の報告によると最近の数年間にジアルディア感染症が驚くほど増加してきている。この感染の臨床的、総合的症候は嚢胞性無症候排泄から持続性重篤な下痢となり、この下痢は吸収不良症候群を作り出すことになる。ジアルディアランブリアを持つ8ヶ月から14才の362人の子供を研究した。ジアルディア感染症の診断は大便や十二指腸管注入法によって確定された。OLEOZONは年齢に応じてドロップやカプセルとし、1日2回、10日間投与した。無投薬の7日間の合間を入れて2サイクルである。第2サイクルを終えておよそ10日後、十二指腸ゾンデ法が行われた。治療判断基準は大便中および十二指腸ゾンデ法でジアルディアランブリアの嚢胞体または栄養体の無存在とした。76%の子供が治癒し、残る治癒未了の子供の89%に臨床上的改善(症状の除去)があった。

65. *Treatment of Primary Pyoderma with Ozonized Sunflower Oil* (オゾン化ひまわり油による膿皮症の治療)

R.Alvarez, S.Menendez*, M.Peguera, and J.Turrent* (General Teaching Hospital Comandante Pinares, Cuba,* Ozone Research Center, Cuba).

オゾン化ひまわり油(OLEOZON)の殺菌性を考慮して、1才から14才の80人の膿皮症の子供で、OLEOZONの効果をゲンタマイシンクリームの効果と比較した。研究は連続6ヶ月間、行われた。患者は無作為に2つの治療群、OLEOZONを用いる実験群とゲンタマイシンを用いるコントロール群にした。すべての患者について治療開始時と15日後後に細菌学的調査を行なった。もっとも頻繁に単離された細菌は *Streptococcus β haemolytic A* 群であった。15日後の治療効果はOLEOZONで68%、ゲンタマイシン使用患者で28%であった。副作用は観察されなかった。

66. *Experiences of Nine Years Using Ozonized Oil in Dermatology* (皮膚科学におけるオゾン化油使用の9年の経験)

L.Falcon, D.Simon, S.Menendez*, S.Moya, E.Garbayo, and W.Diaz* (Dr.Carlos J.Finlay Military Hospital, Cuba,* Ozone Research

Center, Cuba).

オゾン化植物油は数種の皮膚疾患の局所治療に適した一方法である。これらの油とオゾンの反応により強い殺菌力を有する化合物（オゾンとパーオキシド）の混合体が製造される。ウイルス、真菌、細菌由来の皮膚病にオゾン化油（OLEOZON）を9年間にわたり適用した。細菌由来の病気（例えば膿皮症）では600人の患者が治療され87%が治癒と判断された。真菌性疾患（例えば表皮菌症、爪真菌症など）については1000人の患者が治療を受け、91%が治癒した。ウイルス性疾患（例えば単純ヘルペス）では300人の患者が治療され、その72%に再発はなかった。副作用は観察されなかった。

（66報をもって2nd International Symposium on Ozone Applicationsの報告の紹介を終了します。）

研究会からのお知らせ

第4回総会開催 4月18日（日）12:15-13:00。ご出席願います。

第3回運営委員会の報告

1月21日、日本水道協会会議室で開催。

1. 将来、当研究会を学協会に発展させる目標もあり、三役より本研究会の会名を拡大することの提案があった。委員会では「医療並びに公衆衛生、環境におけるオゾンの普及」の方針に沿い、関連する産業分野から共感を得易い会名が必要との意見の一致をみた。総会議案とすることが決まった。
2. 本会報の国際登録手続きを国会図書館に申請した。国際標準逐次刊行物番号（略称ISSN）は1344-6088である（今号から表紙タイトル右端に記載する）。
3. 第4回研究講演会（平成11年4月18日、日曜日）に向けて宣伝強化が図られた。
4. 総会議案の骨子が提案された。
5. 当研究会（獣医師会）主催で2月10日、オゾン療法セミナーを北海道内獣医師を対象に開催する。

会員の變動

入会：個人、内藤茂三、愛知県食品工業技術センター（専門）食品微生物工学
〒451-0083 名古屋市西区福寺町2-1-1

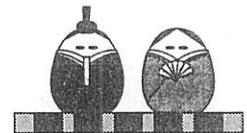
平敷 勇、三菱電機（株）先端技術総合研究所（専門）分子生物学、細胞生物学
〒661-8661 尼崎市塚口本町8-1-1

徳永耕二、徳永神経科内科（専門）神経内科、東洋医学、医学情報学
〒168-0082 杉並区久我山13-30-5

：法人、岩谷産業（株）（業務）低濃度オゾン利用による介護分野における商品開発
〒105-8458 港区西新橋3-21-8

（株）カンキ（業務）微量オゾン応用による介護支援装置の開発
〒105-8458 大阪府交野市郡津3丁目12-15

変更：法人、北洋電子（株）から 北洋環境電子（株）に社名が変更



日本医療オゾン研究会会報, Vol. 6 / No. 1 (通巻 No.18) 発行所：日本医療オゾン研究会
略称：医療オゾン研究, Bull. Med. Ozone Res., Japan 札幌市中央区北4条西28丁目1-12-308
発行：1994年10月15日, 発行人：神力就子 Tel / Fax 011-611-4153
編集：佐谷戸安好 神力就子 三浦敏明 杉光英俊 印刷所：(協) 高速印刷センター
大谷雅彦

